

# 出光グループのサステナビリティ

## サステナビリティ方針

当社は2021年にサステナビリティ方針を制定しました。サステナビリティに関する取り組みを明文化し、当社グループが一丸となって環境課題や社会課題の解決に貢献することを目指しています。

### サステナビリティ方針

私たちは、「責任ある変革者」として、「地球と暮らしを守る」「地域のつながりを支える」「技術の力で社会実装する」という3つの責任を、事業活動を通じて果たしていく所存です。

当社グループは、適切に情報開示を行い、ステークホルダーとの真摯な対話・協働に努め、以下の重点方針のもと、企業価値向上と持続可能な企業体を目指してまいります。

**環境**

- エネルギーと素材の安定供給という社会的使命を果たしつつ、自社のみならず社会のカーボンニュートラル実現に向けて挑み続けます。
- 革新的技術開発を進め、事業活動による環境リスクを予め低減し、自然環境の保全と循環型社会の実現に貢献します。

**社会**

- すべての判断や行動において人権の尊重を最優先し、事業活動における人権への負の影響の防止と軽減に努めます。
- ダイバーシティ&インクルージョン施策の推進により、多彩な能力を生かし企業としての成長を図るとともに、包摂的な社会の実現に貢献します。
- パートナーの皆様と一体となって、サプライチェーン全体で持続可能な社会の実現に貢献します。
- 自社の経営資源を最大限に活用し、地域社会に寄り添ったソリューションの共創に取り組めます。

**ガバナンス**

- 取締役会における審議の充実を図り、継続的に実効性向上に取り組めます。
- 環境・人権・労働・安全・腐敗防止等に関する国際規範を遵守します。
- 公正かつ誠実な経営を行い、当社にとっての重要なリスクを特定した上で、適切なリスクマネジメントを実施します。

## サステナビリティ推進体制

当社は、エネルギー事業を中心としていることから、サステナビリティが経営課題そのものであると考えています。

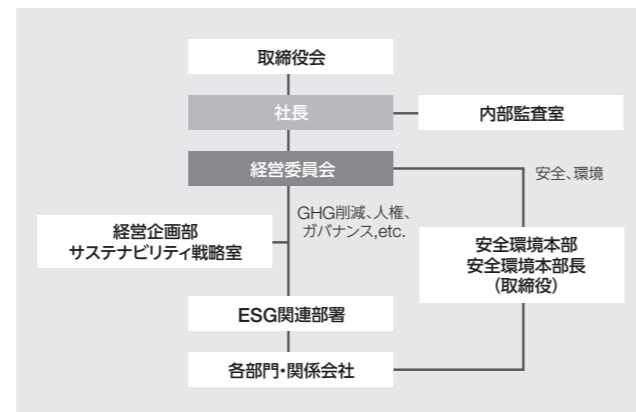
気候変動や人権といったESGの中心課題はもちろんのこと、各事業の諸課題もサステナビリティへの関連が強く、議題は全て経営委員会で議論される体制としています。

経営委員会の委員長は社長が務め、議論された内容は適宜取締役会に報告されています。

また当社ではサステナビリティの専任組織であるサステナビリティ戦略室を経営企画部の中に設置しています。ESG各課題についてはそれぞれ主管する部署が存在しますが、サステナビリティ戦略室が部門横断的に関与して総括を行い、当社のサステナビリティ経営を推進しています。

サステナビリティ戦略室からは年に一回以上、サステナビリティに関する課題進捗を取りまとめて経営に報告し、詳細につい

ては各主管部署からの付議により、経営で十分なサステナビリティに関する議論、モニタリングができる体制としています。



## 国連グローバルコンパクトへの署名と取り組み

当社は2019年に「国連グローバル・コンパクト(UNGC)」の10原則への支持を表明しました。併せてグローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン(GCNJ)に加入しました。

当社はUNGCが提唱する「人権の保護」「不当な労働の排除」「環境への対応」「腐敗防止」に関わる10の原則を支持し、社員

一人ひとりの社会課題解決に対する意識向上を図るとともに、グローバルに展開するエネルギー企業として、事業を通じた持続可能な社会づくりに貢献していきます。



# 出光グループの重要課題(マテリアリティ)

## 重要課題(マテリアリティ)

当社グループは2019年にマテリアリティを特定し、当社にとって重要な社会課題を認識の下、事業活動に取り組んできました。今回、2050年ビジョンや本中期経営計画の策定、また社外を取り巻く環境変化も踏まえ、マテリアリティの見直しを実施しました。

マテリアリティ	KPI・モニタリング指標	関連する主なSDGs
<b>1</b> カーボンニュートラル、循環型社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CO2削減量 (Scope1+2)</li> <li>■ Scope3への貢献行動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 投資/事業計画</li> <li>■ ROIC、収益目標</li> </ul>
<b>2</b> 地域社会への貢献 (エネルギー&モビリティ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 投資/事業計画</li> <li>■ お客さま数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7 持続可能なエネルギー</li> <li>9 産業・サービス革新</li> <li>11 持続可能な都市とコミュニティ</li> </ul>
<b>3</b> 従業員の成長・やりがいの最大化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 出光エンゲージメントインデックス</li> <li>■ 従業員一人当たり教育投資額</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 ジェンダー平等</li> <li>8 豊かになりつつある経済成長</li> </ul>
<b>4</b> D&Iの深化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 女性採用比率</li> <li>■ 女性役職者比率</li> <li>■ 男性育児休暇取得率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 ジェンダー平等</li> <li>10 公平な労働と経済成長</li> </ul>
<b>5</b> デジタル変革の加速	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DX投資</li> <li>■ 生産性向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8 豊かになりつつある経済成長</li> <li>9 産業・サービス革新</li> <li>11 持続可能な都市とコミュニティ</li> </ul>
<b>6</b> ガバナンスの進化	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 取締役会の実効性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16 平和と公正な社会</li> </ul>
<b>7</b> 健康、安全、遵法、人権擁護の徹底	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 従業員の健康指標</li> <li>■ 安全指標 (事故件数等)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>10 公平な労働と経済成長</li> <li>16 平和と公正な社会</li> </ul>

## 重要課題(マテリアリティ)特定プロセス

2019年に特定したマテリアリティからの連続性を重視しつつ、社内外の環境変化を反映し、また中期経営計画とビジョンの達成に向けて以下のプロセスでマテリアリティを見直しました。

**2019年**

**Step 1 課題の抽出**  
GRIスタンダードなど国際的なガイドライン、SDGsやESG評価機関の評価項目を参照し、当社の事業活動およびそれを通じて関係し得る環境・社会の課題を抽出

**Step 2 ステークホルダーにおける重要度の確認**  
多様なステークホルダーにアンケート調査を実施、各課題に対する社内外ステークホルダーにとっての重要度を評価

**Step 3 全社戦略との整合化**  
中期経営計画と整合を図り、課題の優先順位や妥当性を検証

**Step 4 経営層での議論と決定**  
社長を委員長とする経営委員会における協議を経て最終決定

**2022年**

**マテリアリティの見直し**

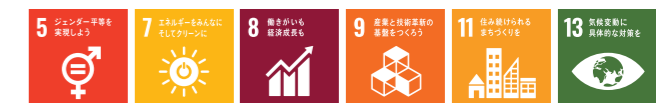
- 2019年から社内外の環境変化を踏まえ、サステナビリティ課題の重要性をダブルマテリアリティ視点で再評価
- 自社が社会・環境課題に与える影響、社会・環境課題が自社に与える影響を重み付け
- 経営陣による議論、社外有識者ダイアログを経て、経営委員会での協議を得て決定

## 重要課題(マテリアリティ)とSDGsの関連性

当社は国際社会の一員としてSDGsの達成に貢献することを目指します。

17ゴールが相互に関連し合うSDGsに対しては当社の活動はその全てに関与すると認識する一方、今回特定したマテリアリティから、特にゴール達成に向けて寄与できる領域と、事業活動を通じて負荷を与え得る可能性があるため対応が必要な領域の認識整理を行いました。

### 特にゴール達成に寄与できる領域



### 負荷を与え得る可能性があるため対応が必要な領域



当社グループは社会課題に与える負荷を最小化、または打ち消すための取り組みを推進すべく、技術開発を進め、事業を通じて実践していきます。